

250819 DRAFT

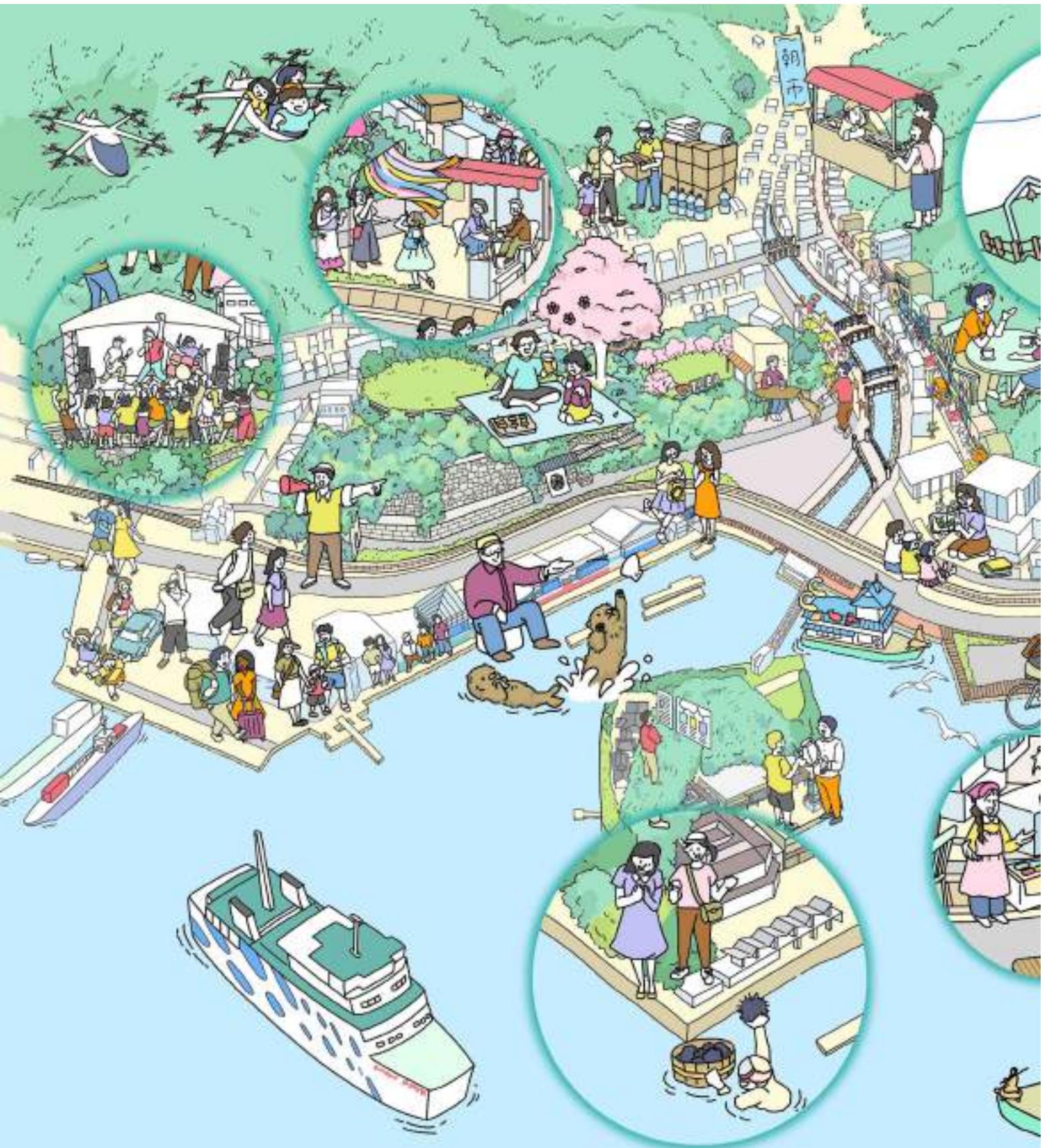
鳥羽駅周辺エリア

Future vision for the area around Toba Station in 2040

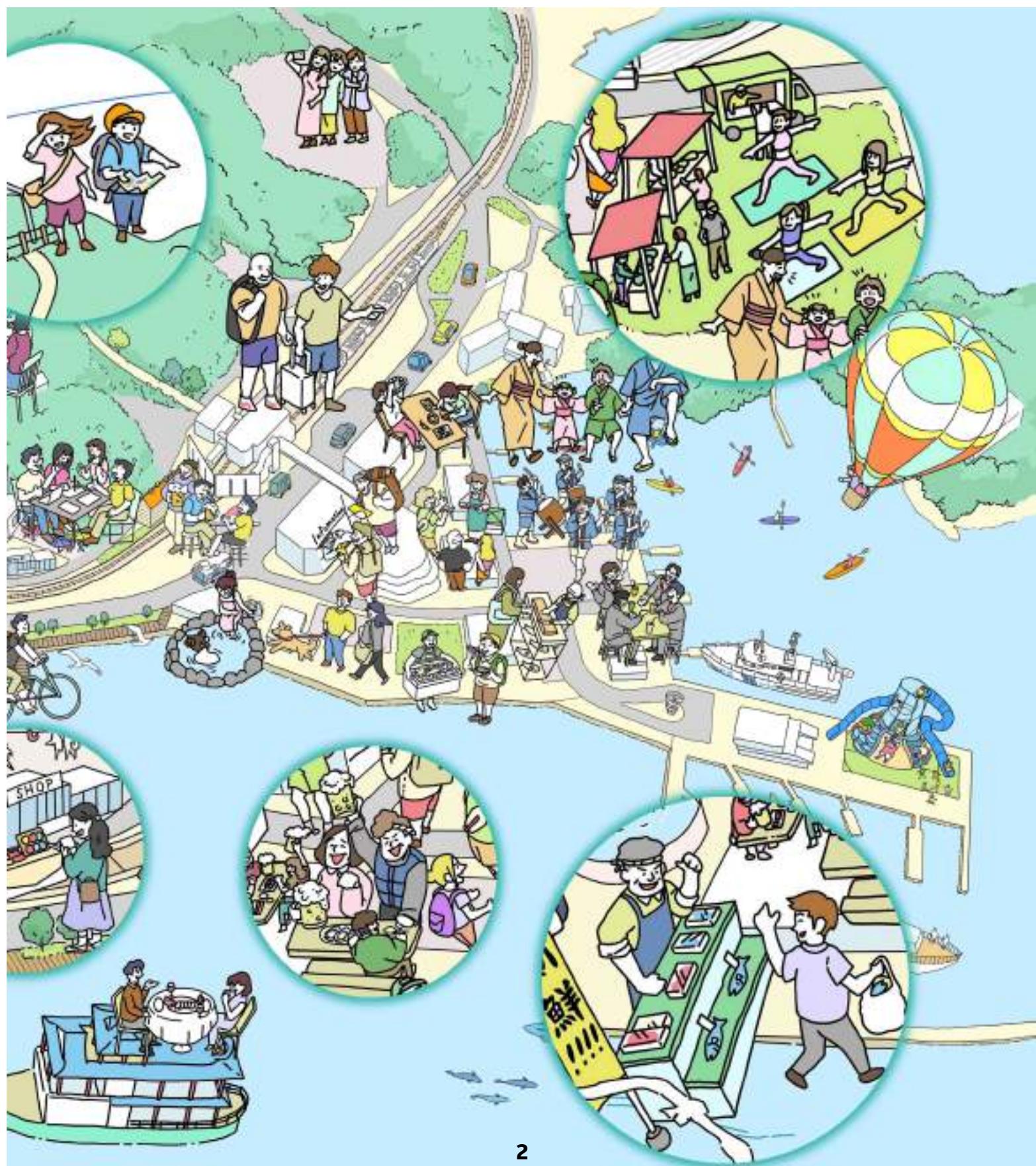
2040将来ビジョン

令和8年3月
鳥羽市

2040年の鳥羽



駅周辺エリアの姿



目 次

将来ビジョンとは

ビジョンの目的・位置づけ	4
対象エリア	5
目標年次	6
ビジョンの構成	6

まちの今と、見てきた未来

鳥羽駅周辺エリアの魅力	7
鳥羽駅周辺エリアの課題	8
エリアの将来についてのたくさんの声	9

鳥羽駅周辺エリアの将来像と目標

2040年の将来像	15
まちづくりの目標	17
地区ごとの目指す姿	19

実現に向けた取り組み

目標達成に向けた取り組み	25
--------------	----

今後の進め方

ロードマップ	31
まちづくり推進体制	32

ビジョン策定までの経緯

参考資料	35
・現況分析	
・アンケート調査の結果	
・ワークショップの結果	

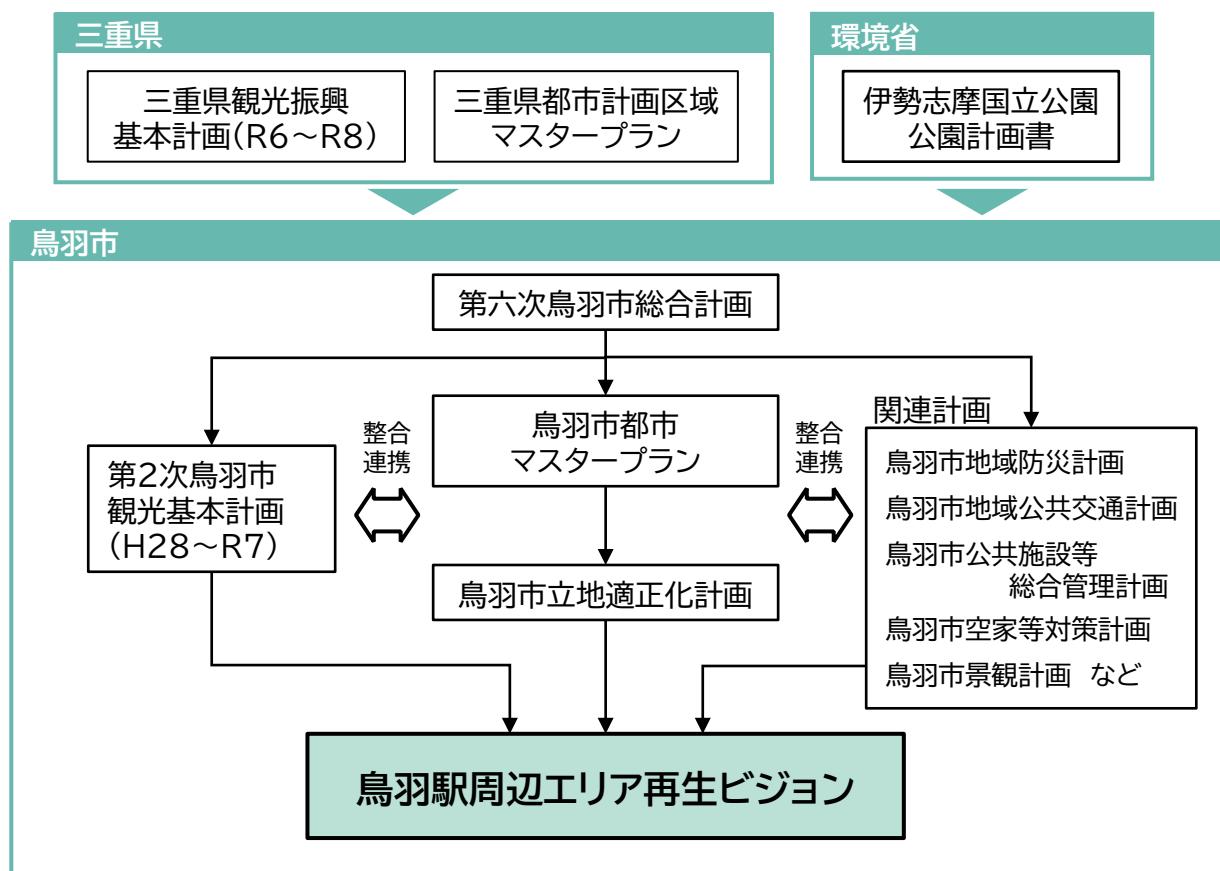
ビジョンの目的

鳥羽市では2040年に人口が1万人まで減少すると推計されており、地域社会の持続可能性が喫緊の課題となっています。特に、**鳥羽駅周辺エリアは経済や交流の中心地でありながら、その力を十分に発揮できていない状況**にあります。こうした中で、本エリアの価値を見直し、未来に向けたまちの姿を描くことは、**市全体の活力を取り戻す重要な契機**となります。

このビジョンは、人口減少や社会の変化に対応しながら、**地域の多様な主体が連携・協働し、将来像の実現に向けて段階的に取り組みを進めていくための共通の指針**として策定したものです。

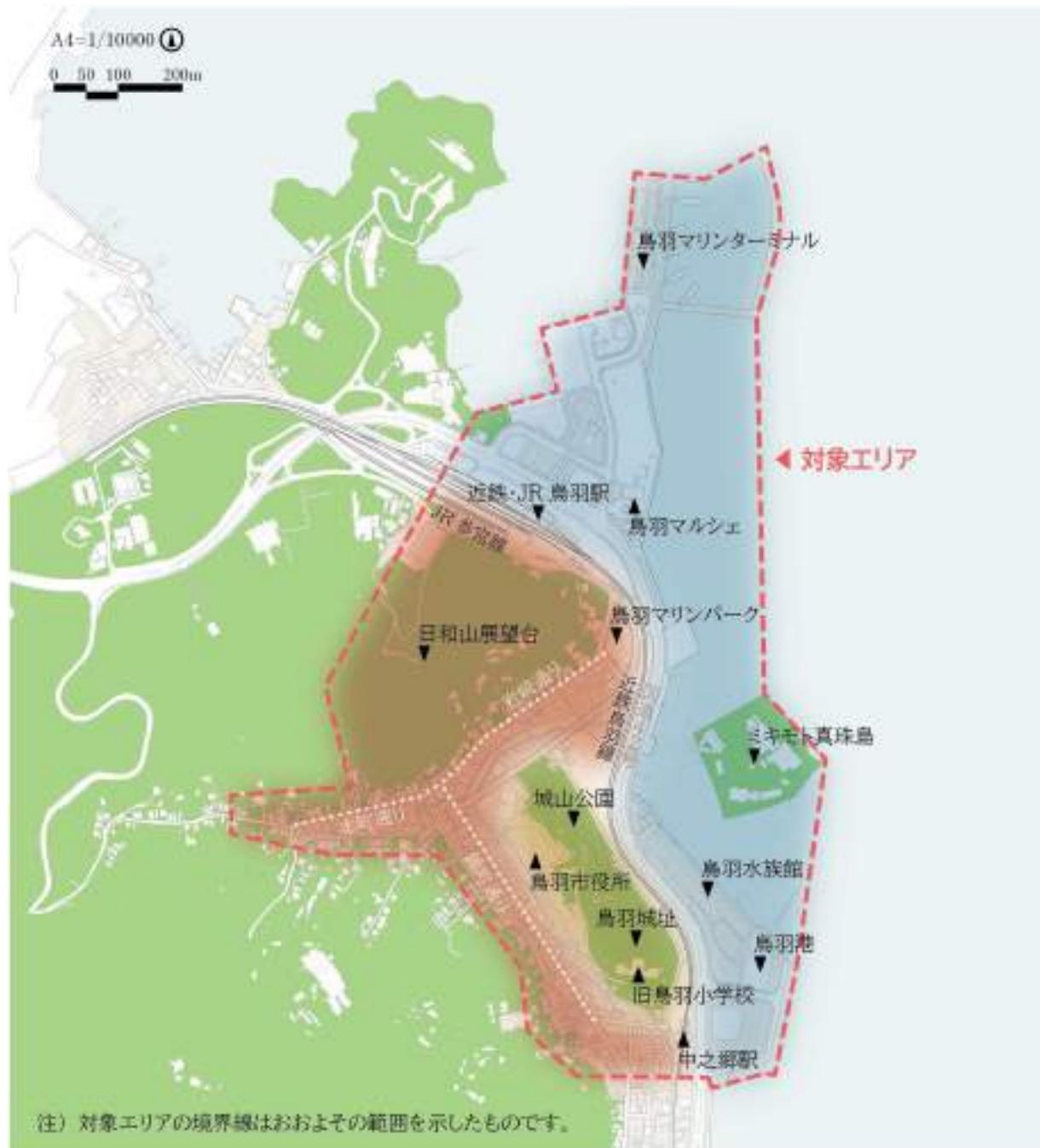
ビジョンの位置づけ

このビジョンは、「鳥羽市総合計画」「鳥羽市都市計画マスターplan」「鳥羽市立地適正化計画」「鳥羽市観光基本計画」などの上位計画、及び市が定める他の関連計画に即して策定しています。



対象エリア

このビジョンの対象エリアは、鳥羽駅及び市役所周辺の以下の地区を含んだ範囲とします。



佐田浜・ミキモト真珠島・ 鳥羽水族館地区

鳥羽駅～中之郷駅間の国道
42号沿い一帯

中心市街地地区

鳥羽駅、岩崎通り及び錦町
通り周辺など

城山公園地区

鳥羽城跡、城山公園、旧鳥羽
小学校など

目標年次

2050年の社会を展望しつつ、2040年を目標とします。

ビジョンの構成

2040将来ビジョンは、次の5つの要素で構成しています。

① 将来ビジョンとは

このビジョンの策定の目的、位置づけ、対象エリア、目標年次、そして構成を示しています。

①将来ビジョンとは

② まちの今と、見えてきた未来

エリアの魅力や課題、地区ごとの特徴、そしてヒアリングやワークショップなどで集まったさまざまな声を通して、「今のまち」と「見えてきた未来への想い」をまとめています。

②まちの今と、見えてきた未来

エリアの魅力と課題

エリアの将来についてのたくさんの声

③ 鳥羽駅周辺エリアの将来像と目標

- **将来像(目指す姿)**: 2040年を目標としたエリア全体の目指す未来の姿を示しています。
- **将来像を実現するための目標**: 将来像を実現するために必要な5つの目標と、各目標ごとに成果を測るための指標(KGI)を示しています。
- **地区ごとの目指す姿**: エリアを構成する各地区ごとの特性を踏まえた目指す姿を示しています。

③鳥羽駅周辺エリアの将来像と目標

2040年の将来像

将来像を実現するための目標

④ 実現に向けた取り組み

5つの目標達成に向けた基本方針と具体的な取り組みや実施主体を示しています。

④実現に向けた取り組み

基本方針

具体的な取り組み

⑤ 今後の進め方

- **ロードマップ**: 2040年の目標達成に向けてのロードマップを示しています。
- **推進体制の構築**: ビジョンを実現するための今後の推進体制を示しています。

⑤今後の進め方

ロードマップ

推進体制の構築

鳥羽駅周辺エリアの魅力

鳥羽駅周辺エリアは、海・港と鉄道駅がすぐそばにある、全国的にもめずらしい場所です。駅を降りると、目の前には鳥羽湾が広がり、遠くには離島を見ることができ、季節ごとに変わる海や空の表情を感じることができます。西側には日和山をはじめとする山々が広がっており、豊かな自然環境に恵まれたまちです。海と山の間には、かつて鳥羽城とその城下町であった、市の中心である市街地が形成されています。

海沿いの佐田浜地区は、鳥羽駅・港・バスセンターが集まっており、市内外を多様な交通でつなぐ重要な交通結節点です。駅から歩いて行ける海沿いには、鳥羽水族館やミキモト真珠島といった有名な観光施設が集まっています。中心市街地地区には、市役所などの公共サービスの中心であるとともに、古くからの旅館や小さな飲食店が立ち並んでいます。懐かしさを感じられるまちの雰囲気も、鳥羽ならではの魅力です。城山公園地区は、鳥羽城跡や旧鳥羽小学校が残っており、鳥羽の歴史や文化を感じられる場所となっています。本丸広場から鳥羽の海の景色は、訪れる人々を魅了します。春には城山公園の桜が咲き誇り、特別な風景が広がります。

漁業が盛んな鳥羽では、海の幸がとても豊富で、地元の食材をまちの中の飲食店で楽しむことができます。その中でも、「鳥羽マルシェ」は、市民からも観光客からも人気があり、「鳥羽の新鮮な食」に出会える場所です。

季節ごとに行われるイベントも、鳥羽のまちを彩ります。夏の鳥羽みなとまつりや海上花火大会、秋のオクトバ、そして鳥羽船上からの初日の出などは、地元の人と観光客が一緒に楽しめる時間です。

観光と暮らしが交わる鳥羽のまちは、多様な魅力にあふれています。地域の人が大切にしてきたこの風景と文化を、次の世代へとつなげていくことが、これからまちづくりにつながっていきます。

..... 全国アンケート調査[※]結果より.....

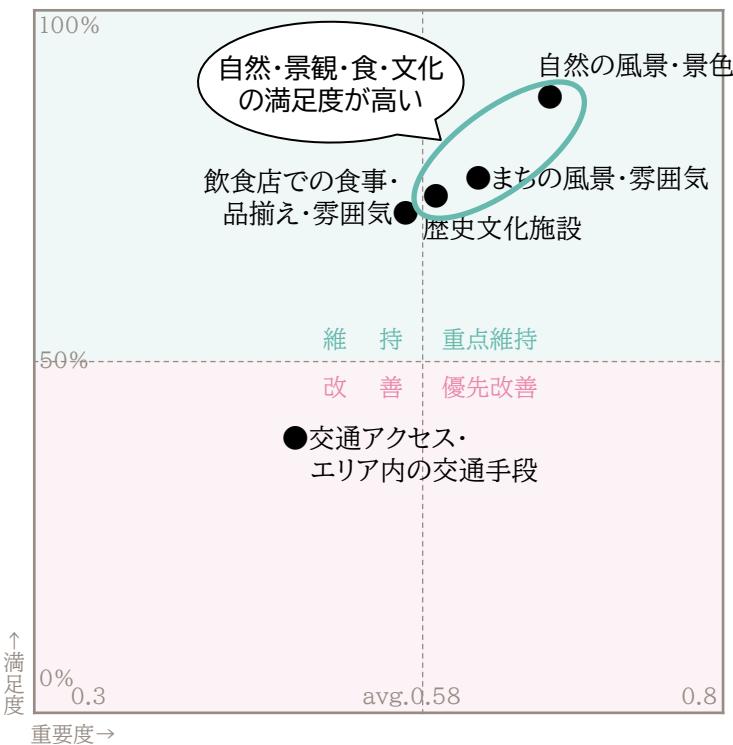


図:満足度と重要度の関係(CSポートフォリオ分析※結果)

※CSポートフォリオ分析とは、「項目ごとの満足度」と「総合満足度と項目ごとの満足度の相関係数」から、改善項目を抽出する分析方法。

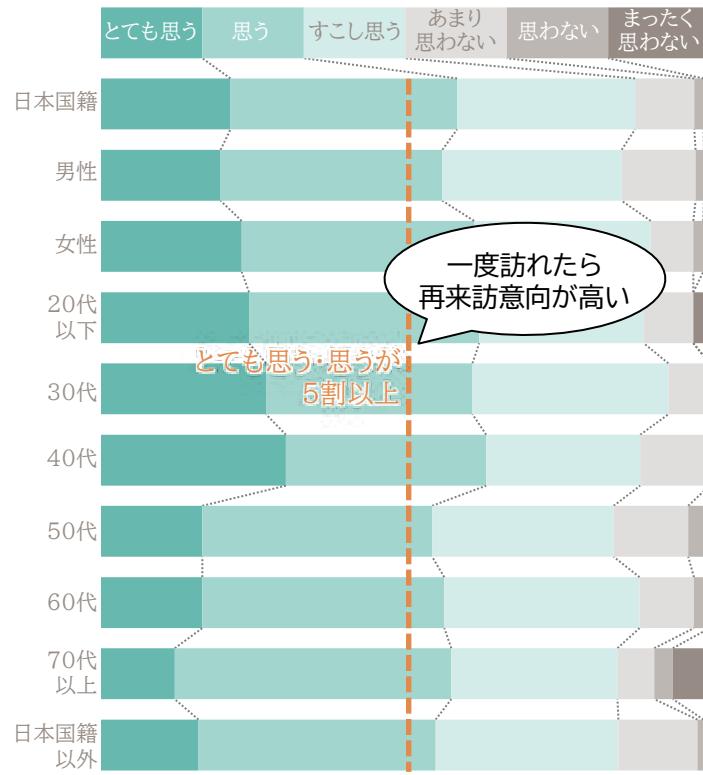


図:年代別再来訪意向 (「鳥羽にまた来たいと思いますか?」に対する回答)

※全国アンケート:国内に在住する日本国籍・日本国籍外の対象モニター10,000人を対象に実施したWEB形式のアンケート調査。(詳細は参考資料参照)

鳥羽駅周辺エリアの課題



鳥羽駅周辺エリアにはたくさんの魅力がある一方で、地域としての課題もあります。

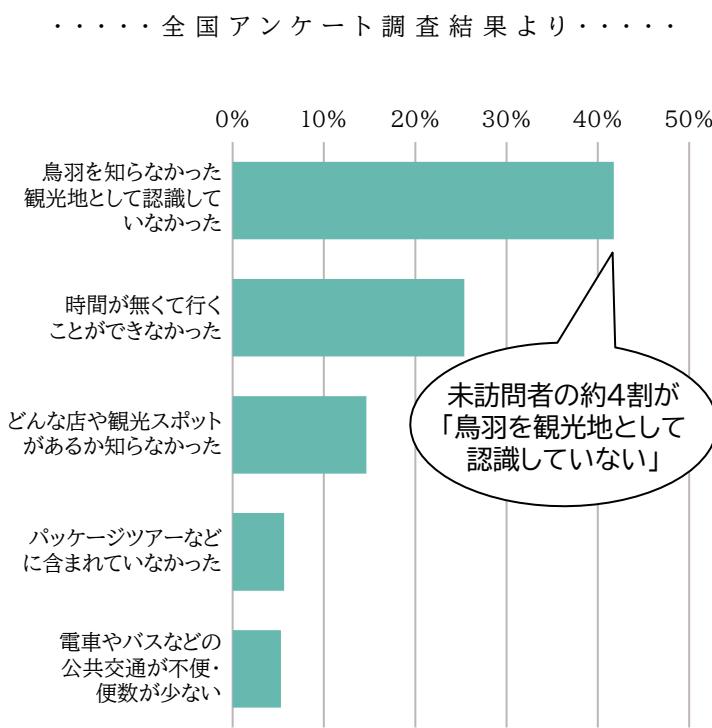
人口減少と高齢化が進み、地域の働き手や後継者が不足しています。暮らしを支える人が減っていくことで、まちの元気を保つことが難しくなってきました。将来鳥羽に戻りたい、鳥羽で働きたい、暮らしたいと思う若者も少なく、若者が鳥羽に住みたいと思える環境づくりが求められています。

まちの構造にも課題があります。鉄道や道路によって、海とまちが分断されています。自由通路デッキや地下通路が整備されていますが、一部の場所はバリアフリーに対応していない、案内表示が少ないなど、観光客にとっても移動しにくいという不便さを感じる人もいます。

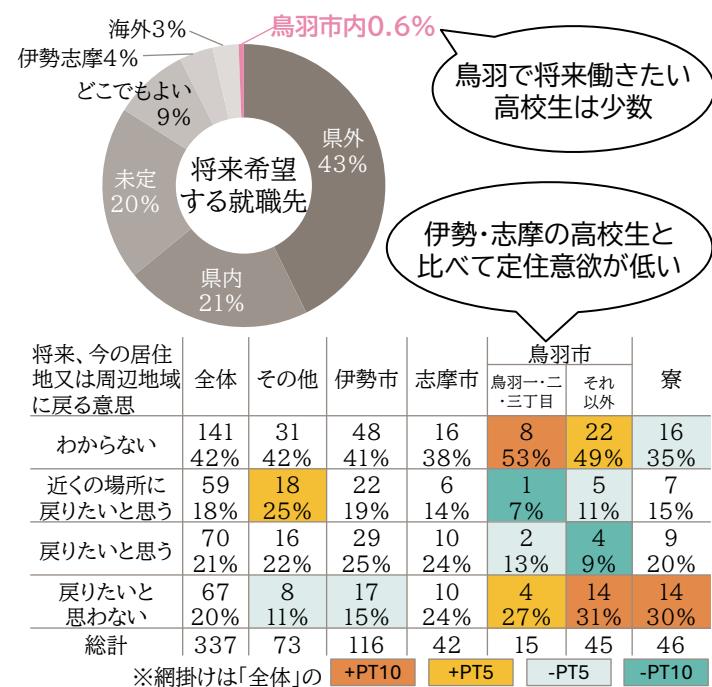
鳥羽駅前や市街地内のメイン通り沿いは、空き家や空き店舗が目立ち、かつてにぎわいの中心的な役割を担っていた場所も現在は閑散としてとても寂しくなっています。「気軽に立ち寄れるカフェやレストランがない」「宿泊施設が少ない」「日常生活に必要な買い物場所などの生活サービスが不足」といった声もあり、滞在のしにくさが感じられています。また、海沿いの観光施設を目的として来訪する観光客の一部は、まちの中を巡ることなく、目的地と駐車場の行き来のみとなってしまっています。

また、南海トラフによる津波や最近のゲリラ豪雨による土砂災害のリスクも高い場所です。市民にとっても、観光客にとっても、災害に対して安全・安心なまちづくりが強く求められています。

こうした課題を一つずつ丁寧に見つめ直し、より良いまちの姿を描いていくことが、これから鳥羽のまちづくりに必要です。



…… 高校生アンケート調査※結果より ……



図：鳥羽に訪問していない理由(※上位5つ抜粋)

図：高校生が望む就職先、将来の帰郷意思

※高校生アンケート：鳥羽高等学校の学生(142名)と鳥羽商船高等専門学校の学生(635名)を対象に実施したWEB形式のアンケート調査。(詳細は参考資料参照)

アンケート・インタビュー調査から得た声

将来像や目標の検討にあたり、なるべく多くの意見を収集するため、下記の4つのヒアリング調査を実施したところ、対象エリアに対して期待する役割や機能が見えてきました。

ヒアリング調査の概要

	市民アンケート	全国アンケート	高校生アンケート	事業者インタビュー
目的	鳥羽市民から見た対象エリアの強み・課題・望むこと	市民以外の人の鳥羽への訪問状況や評価	若者目線の対象エリアの印象や将来への期待	鳥羽市内で業を営む事業者から見た対象エリアの課題・望むこと
対象	鳥羽市在住の市民 (16,433名のうち412サンプル)	条件に合致するモニターから無作為抽出 スクリーニング調査(事前調査):10,000サンプル 本調査:日本国籍400サンプル、外国国籍100サンプル [条件] ・調査会社(楽天インサイト)に登録済の15歳以上の男女 ・鳥羽市在住ではない	鳥羽高等学校の生徒 (142名のうち115サンプル) 鳥羽商船高等専門学校の学生 (635名のうち222サンプル)	各事業者(13名) 観光関連事業者、農林水産業関連、商工会、自治会、移住者、交通関連事業者
調査方法	郵送形式(広報とば)とWEB形式の併用	WEB形式	WEB形式 ※各クラスのHR等で先生からアンケートフォームを周知	対面によるインタビュー形式
調査期間	2024年9月27日(金)～2024年10月31日(木) ※約1か月間	2024年10月2日(水)～2024年10月4日(金)	2024年10月14日(月)～2024年10月31日(木) ※約2週間	2024年10月21日(月)・22日(火)・23日(水)

ヒアリング結果

エリア全体についての多くの声

共通して多く挙がったのは、「まちの魅力である海・自然や歴史文化を守り伝えること」と「日常の利便性や交流の機会を高めること」への期待でした。美しい自然や海、歴史文化といった鳥羽らしい資源を大切にしたいという思いとともに、生活や観光の視点から、利便性やにぎわい、出会いや体験の場づくりへのニーズが見えてきました。

美しい自然環境・景観を保全したい

体験や交流が充実してほしい

この場所ならではの歴史や文化を伝えたい

生活利便性が向上してほしい

海を活かしたい



ヒアリング結果

各地区に期待すること

佐田浜周辺では、観光や交通の結節点としての役割強化や、若者・市民向けサービスの充実が求められています。中心市街地では、生活利便性の向上に加え、宿泊や歩行環境、働き手や子育て世代を支える機能が期待されています。城山公園エリアでは、歴史文化を活かしたにぎわいや学びの場づくりが望まれています。

佐田浜・ミキモト真珠島・鳥羽水族館地区

中心市街地地区

城山公園地区

市民・離島住民向けサービス
(生活に関連する購買施設や飲食店舗)

新たな観光施設

「みなど」を活かした交通結節点

若者向け施設

市民向けサービス
(生活に関連する購買施設や飲食店舗)

多様な滞在インフラの充実

歩きたくなる機能

働き手の受け入れ施設

歴史文化施設

広場・公園

温浴施設

市民・若者・働き手などにも
必要な機能・サービス

城郭の復元

若者向け施設

(旧鳥羽小学校に対する意見)
にぎわい・集客施設
歴史・文化を伝える場

若者を対象としたワークショップ

将来のまちづくりの担い手となる、若い世代（現役高校生、市役所若手職員、外国人スタッフなど）を対象としたワークショップを実施しました。参加者たちは4つのテーマごとに意見を交わし、自由な発想で将来像やアイデアをまとめました。

ワークショップの概要

日時：令和7年6月27日（金）18時30分～21時

場所：鳥羽市役所 大会議室

主催：鳥羽市 企画財政課

参加者：鳥羽市在住の10～20代の若者・外国人（計19名）

ワークショップの進め方：参加者を3グループに分け、4つのテーマごとに付箋にアイデアを書いてA0の模造紙にまとめたうえで、最後に各グループの議論内容を発表し合った。

ワークショップの進行プロセス

テーマ0 鳥羽ならではの価値を考える
伊勢志摩以外の友だちや外国人に紹介したいモノ・コトを挙げる

テーマ1 外国人の困りごととその解決方法を考える
外国人が鳥羽で過ごす例も参考に、課題と解決方法を議論

テーマ2 佐田浜とマリンパークの将来を考える
観光客や住民などの目線で「あつたらいいな」と思うモノ・コトを提案

テーマ3 城山公園・鳥羽城跡の使い方を考える
他地域の事例を参考に、広場の使い方のアイデアを提案

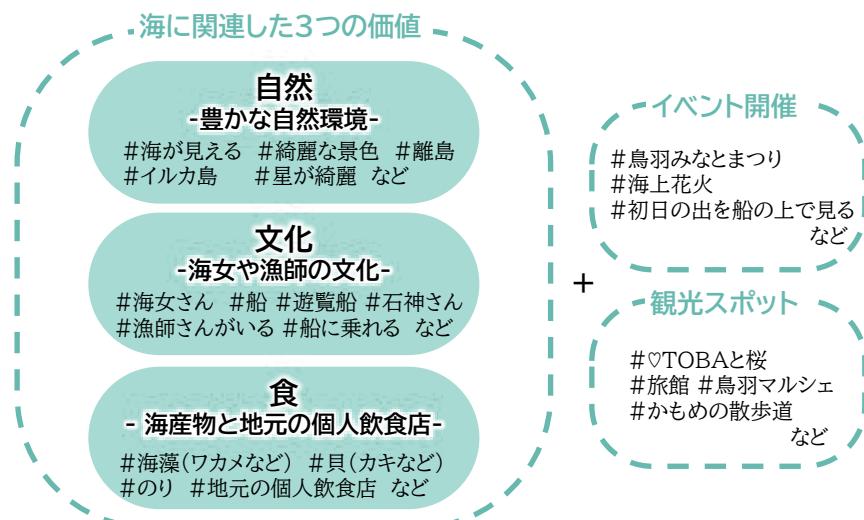
議論内容をプレゼン

テーマ0結果

若者が思う“鳥羽ならではの価値”

海に囲まれた鳥羽のまちには、他にはない独自の価値があると多くの参加者が感じていました。特に海に関連した「自然」「文化」「食」の3つの視点から、海とともにある鳥羽の暮らしや観光の発展の可能性が語されました。

さらに、こうした価値を活かしたイベントや観光スポットの展開にも期待が寄せられました。「見る」だけでなく「体験する」機会を増やすことで、鳥羽の価値をより多くの人に伝えられるのではないか、という声が上がりました。



テーマ1結果

若者と外国人が語る“鳥羽での暮らしの困りごと”

特に多かったのは「言語の壁を低くするサービスが少ない」と「交通手段のわかりづらさ」です。外国人にとつても暮らしやすく、安心して訪れられるまちを目指すには、観光面と生活面の両方からの工夫が求められています。

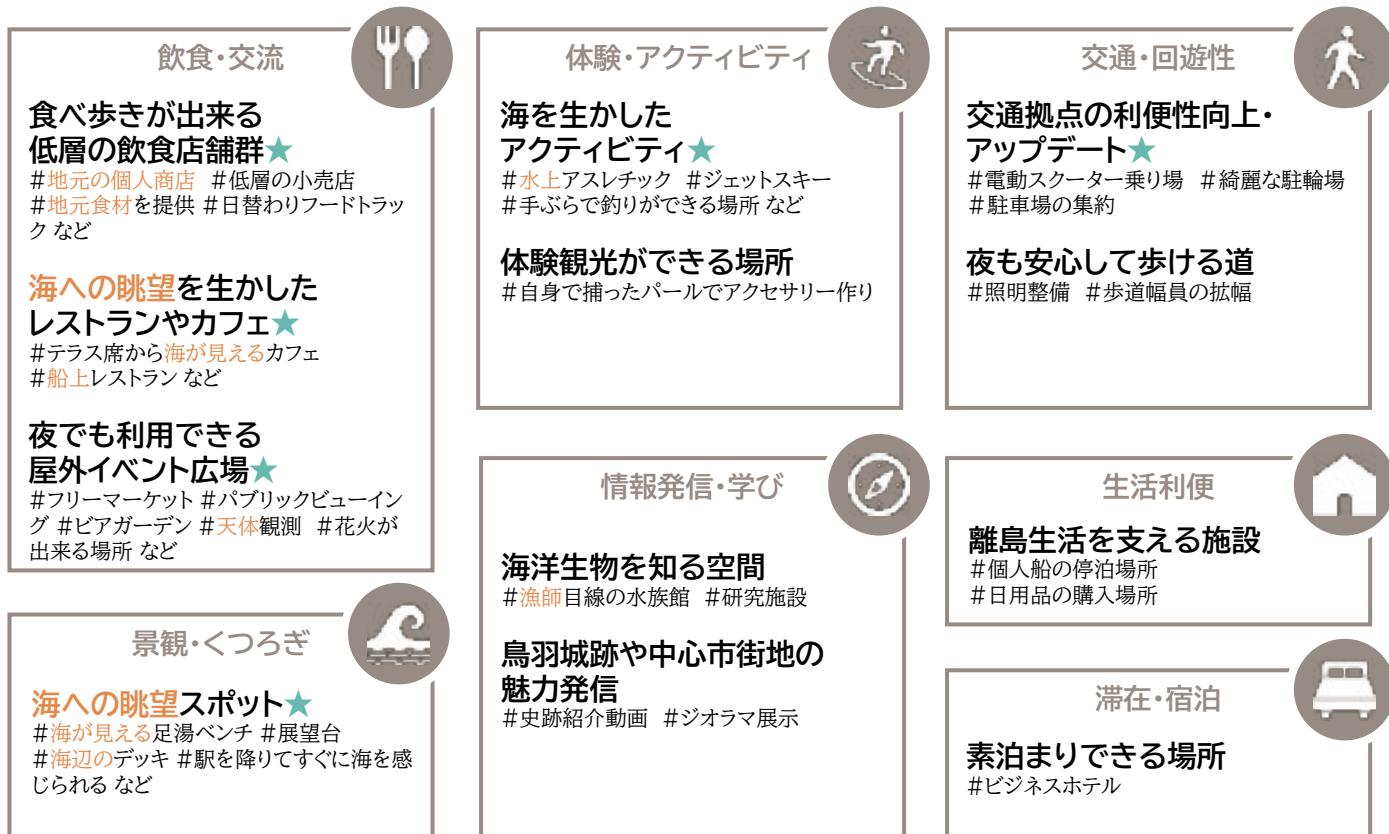
	課題	解決策
3グループ共通意見	多言語表記の看板や観光マップがない	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語表記対応 ・サインのフォーマットをエリア全体で統一 ・モデルルートを提示するサイン
	バスターミナルやタクシー乗り場への案内が少なく行方が分からず	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人案内員の採用(短期的) ・デジタルサイネージの整備(短期的) ・交通施設の再整備を期待する(長期的)
	キャッシュレス対応の施設が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・市内共通の決済システムの導入+補助金支援 ・キャッシュレス対応可否の明示
グループ別意見	ゴミの捨て場所・分別方法がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ箱の場所のマップへの反映 ・ゴミ箱の集約化
	夜が暗くて歩くのが怖い	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間景観の改善 例)主要施設～駅までの照明設備の整備など
	風習や作法がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートナビゲーションによる作法の紹介
	宗教対応の食事の提供場所がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラルマップの提供

テーマ2結果

若者が描く“佐田浜・マリンパークの未来の姿”

グループ共通で「食」「自然」「観光スポット」に関する意見が多く出され、特に地元の食材を活かした飲食や、海を感じる空間が重視されました。夜間にぎわいや交通利便性の向上といったテーマ1での課題を受けた意見もあり、昼も夜も人が集う場を目指す提案が見られました。

また、若者の価値観ではあまり挙がらなかった歴史や中心市街地の魅力向上に触れる声もあり、まち全体をつなぐ拠点としての将来像が描かされました。



★:3グループ共通意見 オレンジハイライト:テーマ0で「価値」として挙がっていた観点

テーマ3結果

若者が提案する“城山公園・鳥羽城跡の新しい使い方”

各グループから多様なアイデアが出ました。特に、音楽フェスなどの集客イベントに加え、野外シネマ・ランタン祭り・イルミネーションなどの日没後のイベント開催について複数名から提案がありました。新たな交流の場としての役割を果たすことが期待されています。

地形や空間的特徴を活かす

- ・石垣にボルダリングを整備
- ・斜面を利用した長い滑り台を整備
- ・肝試しの実施
- ・星空観賞

歴史的価値を活かす

- ・お城をモチーフにしたアスレチックの整備
- ・歴史的価値を活かしたカフェの整備
(茶室風・戦国時代コンセプト)
- ・バーチャルの城が出現するデジタルアート
- ・武将コスプレのコンペティションの実施
- ・石垣へのプロジェクションマッピング

地元の観光資源を活かすイベントの実施

- ・地酒をテーマとしたイベント
- ・シーグラスのアクセサリー作り体験を行う

その他のイベントの実施

- ・音楽フェス
- ・野外シネマ
- ・イルミネーション
- ・ランタン祭り
- ・ダンスの大会
- ・親子運動会

その他

- ・気球を飛ばす
- ・空飛ぶ車のポートの整備
- ・ドラマ・映画・MVの撮影場所としての利用

将来の利用者になって考えるワークショップ

将来このエリアを利用するリードターゲット※を想定し、それぞれの立場で「どんなまちであってほしいか」「どのように過ごしたいか」を考えました。参加者は、家族連れやシニア夫婦、大学生グループ、離島住民などになりきって、まちの姿や一日の過ごし方を思い描きながら、エリアに求められる体験や機能を整理しました。

ワークショップの概要

日時:令和7年1月24日(金)14時~16時

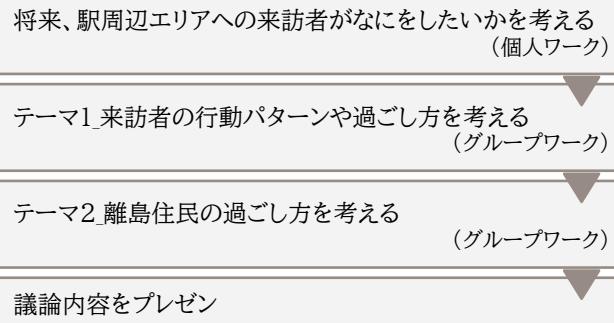
場所:鳥羽市役所 大会議室

主催:鳥羽市 企画財政課

参加者:検討部会メンバー

ワークショップの進め方:参加者を3グループに分け、3つのテーマごとに個人ワークやグループワークを実施し、最後に各グループの議論内容を発表し合った。

ワークショップの進行プロセス



※リードターゲット(将来の駅周辺エリア利用者)とは、将来に期待する潜在的な顧客を指します。このビジョンでは、今後も増えることが見込まれる、もしくは来訪を望む利用者層、そして離島住民を重視して設定しています。

リードターゲット(来訪者)		リードターゲット(市民)	
鳥羽水族館の主要客層である 家族連れ	神宮参拝のついで利用 シニア夫婦	日帰り旅行利用 大学生グループ	定期船で市内と行き来する 離島住民
集客核である鳥羽水族館の メインターゲットであり 宿泊や飲食・お土産など 消費額も高い重要な利用者	鳥羽への期待度満足度の高い ロイヤルカスタマーであり 各スポットでの高単価消費が 見込める利用者	高い消費はないものの 流行に敏感な オピニオンリーダー になりうる利用者	ボリューム、消費額は少ないが 定期的に通行・利用される 市民の中でも 考慮すべきターゲット

ワークショップの結果①

将来の利用者が望むまちの姿

リードターゲットがどのように過ごし、何を求めているのかを整理しました。日常・観光の垣根を超えた滞在ニーズが見えてきました。

家族連れ／シニア夫婦／大学生グループ

鳥羽でしかできない食・風景を体験する

#海ならではのアクティビティ #海沿い散歩 #海の景色
#観光船 #屋外シアター #観覧車 #温泉巡り
#ロードバイク #釣り体験 #自分で釣った魚を食べる



地元の学生

何気ない憩いの時間を過ごす

#海辺のカフェで友達と過ごす時間
#たまり場 #みんなでだらだら



シニア夫婦旅行

地元の人と来訪者が気軽に交流する

#地元居酒屋で食事
#地域の歴史の語り部との交流
#地元の人との交流



離島住民

地元の人も普段利用しやすい環境がある

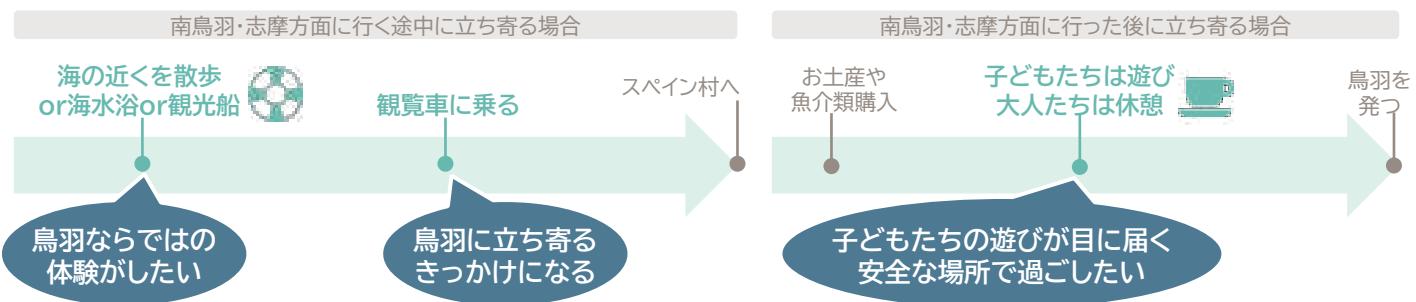
#離島で買えないもの #市民価格
#安価で気軽に泊まれる

ワークショップの結果②

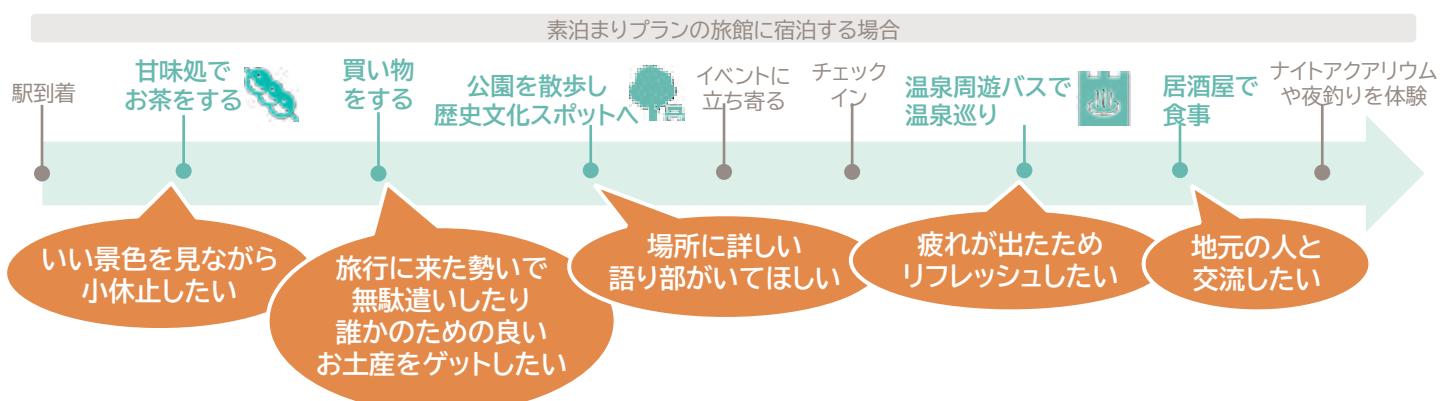
それが過ごしたい“鳥羽での一日”

リードターゲットたちが、エリアでどのような一日を過ごしたいか、一日の行動を描き出しました。行動の流れをたどることで、必要とされる機能や空間のヒントが見えてきました。

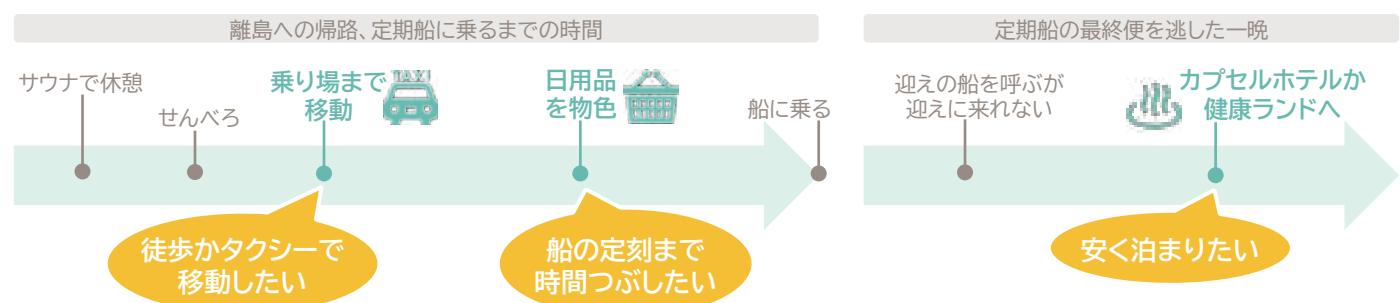
例1 都市部からの家族連れ観光客の場合



例2 伊勢神宮と鳥羽の両方を観光するシニア夫婦の場合



例3 離島住民(50代男性)の場合



例4 離島住民(学生)の場合



※本ビジュアルでは代表的な行動のみを掲載しています。このほかにも、都市部の大学生グループや離島の70代単身女性など、利用者ごとに多様な行動パターンが描かれました。詳しくは別資料をご覧ください。



みなとまち

Port Town

国際観光文化
International Tourism and Culture

訪れる人を温かく迎える

Welcoming Visitors Warmly

旅立つ人を応援する
Supporting Everyone Who Sets Out from Here

海の価値と可能性を世界に拓く国際観光文化の みなとまち
訪れる人を温かく迎え入れ 旅立つ人を応援する みなとまち

PorTOBA

ポルトバ

鳥羽市の海とまちをつなぐ玄関口として、
訪れる人を温かく迎え入れ、新たな旅立ちを見守る場所、
市民も訪れる人々も安心して憩える場所、
そして文化や歴史、人々の想いを未来へ運ぶ場所にしたいという願いを込めています。

「ポルトバ」とは、港を意味する英語「Port」と「鳥羽(TOBA)」を組み合わせた言葉です。
英語の「Port」、ラテン語の「Porta」、これらの語源である「Portare」「Portus」には、「港」以外にも、
「運ぶ」「安息の地・避難所」「入口・通路」「都市の門・ドア」といった意味があります。

An international tourist and cultural port town that opens up the value and potential of the sea to the world

A port town that warmly welcomes visitors and supports those who are setting out on their journeys.

PorTOBA

As the gateway connecting the sea and the city of Toba,
it aims to warmly welcome visitors, watch over new beginnings,
provide a place where both residents and visitors can relax with peace of mind,
and serve as a place that carries the culture, history, and
aspirations of people into the future.

“Portoba” is a combination of the English word ‘port’ and “Toba.”
The English word “port,” the Latin word “porta,” and their etymological roots
“portare” and ‘portus’ have meanings other than “port,” such as
“to carry,” “place of rest or refuge,” “entrance or passageway,” and “city gate or door.”

将来像を実現するための目標

目標①

里山里海とともに
観光客と市民がにぎわう
ニューゲート



目標②

市民も観光客も
安心して過ごせる
防災のまちづくり



目標③

鳥羽うみ文化・
歴史を引継ぎ
時代とともに進化する



目標④

※4
オールストレスフリーで
海にもまちにも行き届く



目標⑤

たたずみ歩いて楽しい
かもめと海城の散歩道



►KGI :Key Goal Indicator

各目標が実現されたかどうかを判断するための成果指標。これらすべてが達成されたとき、将来像が実現といえる。

国立公園内の貴重な自然環境・文化と調和・共存する、鳥羽の中心かつ新たな玄関口として、訪れる人を温かく迎え入れ、新たな旅立ちを応援する場となります。市民と来訪者の交流が生まれる、居心地の良い空間は、昼も夜も楽しむことができ、にぎわいにつながります。この地区のにぎわいが鳥羽市の経済を活性化させ、自然環境の保全と文化の継承、持続可能なまちづくりを支えます。

年間来訪者数

平均滞在時間

自然環境に対する満足度

防災に対する意識・満足度

観光客の防災避難対策に対する意識

激甚化する津波・土砂災害を想定した事前復興まちづくりにより、市民も来訪者も安心かつ安全に過ごせる、レジリエント※1なまちになります。そして、市民の生活拠点や観光施設が防災拠点となる“防災まちづくり”が“観光”につながり、将来選ばれる観光地になります。

※1:レジリエント:持続可能な成長を確保するために、災害や危機などのショックを吸収し、新しい情況に適応し、自身を変革し、将来のショックやストレスに備える力。

城下町として栄えた歴史や、漁業と流通を支えている港町の営みや文化が生み出す本物の価値は、世代を超えて引き継がれ、市民のシビックプライド※2として醸成されます。地域の食の安全を確実に守る取組みなどは、時代とともに新たな価値を生み出します。訪れる人は、新たな価値を感動リアル体験※3することで、かけがえのない時間を過ごすことになります。

※2 シビックプライド:地域に対する住民の誇りや愛着、地域社会に貢献する意識。シビックプライドを育むことで、地域活性化や魅力向上に寄与し、住民の協力を促進する。

※3 感動リアル体験:実際にその場で体験することで強い感動や印象を受ける経験のこと。この体験を通して、過ごした場所や時間が特別な記憶として深く刻まれ、地域のファンを増やすきっかけとなる。

国内外、市内外の各地域のみならず、世界との強いつながりをもつ交通ハブとともに、ラストワンマイル※5まで行き届く交通ネットワークは、誰もが使いやすい便利な交通となります。住む人・訪れる人、みんなにやさしいアクセシブル※6な交通インフラによって、安全かつ快適に目的地まで足を運ぶことができます。

※4 オールストレスフリー:利用するすべての人にとってストレスなく便利で使いやすい状態を表した造語。

※5 ラストワンマイル:タクシーや乗合タクシーなど、交通不便地域における公共交通機関では提供されない地域住民の生活に必要な輸送。

※6 アクセシブル:身体の状態や能力や年齢の違いによらず、多様な利用者にとって利用しやすい状態。

海沿いの「かもめの散歩道」と、まちなかにつくられる「海城の散歩道」は、エリア全体に広がる散歩道となります。散歩道沿いにある、人々の居場所をうみ出すプレイスメイキング※7によってつくられたオープンスペースは、人々の回遊を促し、人を中心のウォーカブルな空間となり、わくわくするまちなかとなります。

※7 プレイスマッキング:人々の居場所をつくることによって、空間の居心地が良くなり、楽しいコンテンツが生まれ育ち、にぎわいが生まれ魅力が増し、まちの価値が上がっていくこと。

公共交通利用者満足度

外国人満足度

移動体験満足度

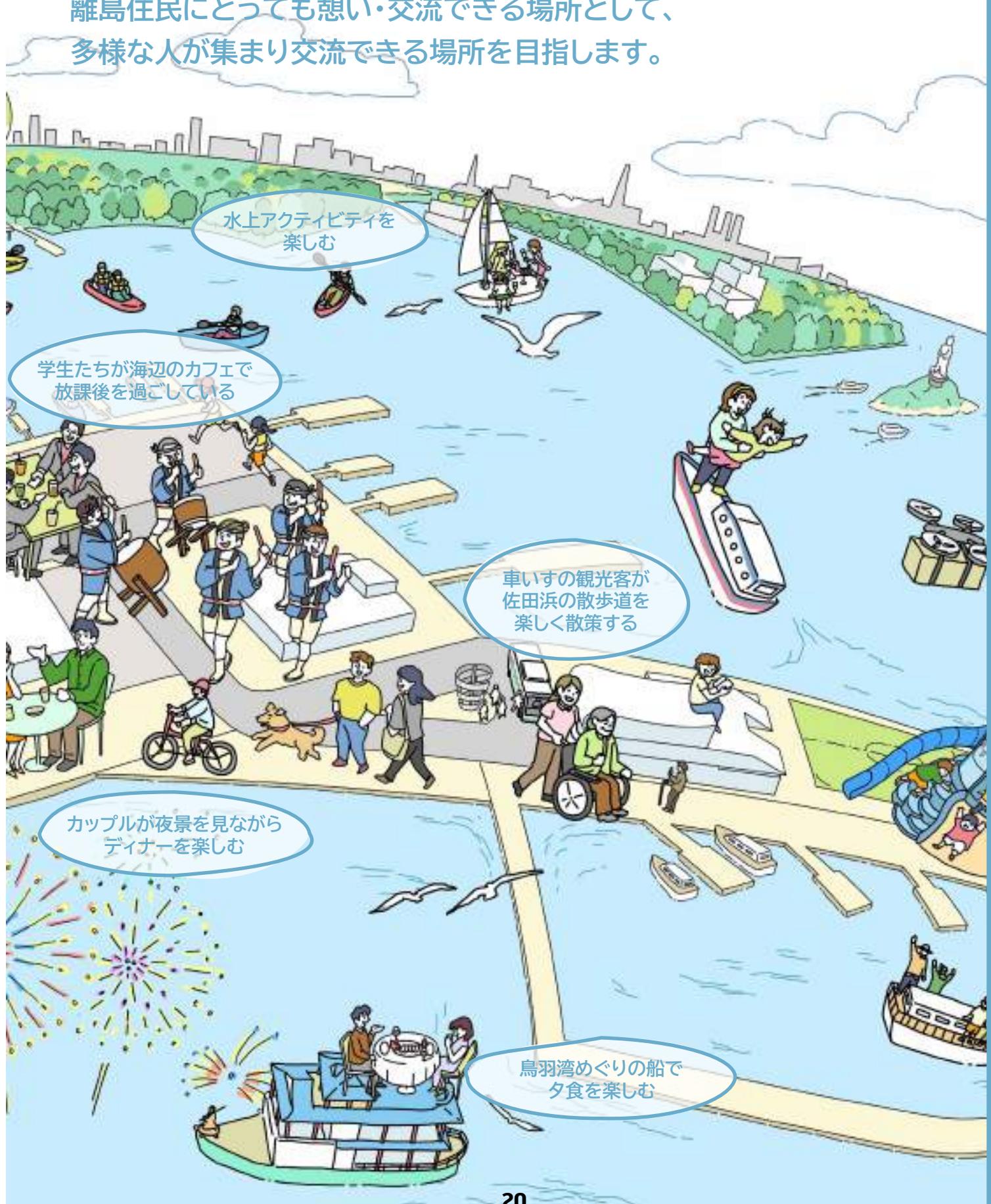
まちなかの居心地満足度

佐田浜地区の目指す姿

鳥羽うみ文化の発信とともに、
「観光と暮らし」が交わり、多世代が集う、
新たな賑わい・交流の拠点地区



鳥羽うみ文化発信拠点・にぎわい拠点をつくることで、観光客に魅力的な賑わいをつくるとともに、離島住民にとっても憩い・交流できる場所として、多様な人が集まり交流できる場所を目指します。



城山公園地区の目指す姿

歴史文化が息づく場で、
日常に寄り添いながらまちを支える
城山公園地区



歴史・文化を感じられる場や、人が活動する小さな拠点を点在させることで、歩きたくなる・立ち寄りたくなる風景をつくり、出会い・交流・新たな発見が見つかる中心市街地地区を目指します。



中心市街地地区の目指す姿

ふと立ち寄りたくなる風景と人の営みが広がり、歩けば出会いと発見が生まれる中心市街地地区

鳥羽駅周辺エリアが目指す空間構造

各地区の役割と整備方向を明確にして、互いに連携し合うことで、みなとまちとしての魅力を高めます。地区的特性を活かした拠点整備、海・まち・山をつなぐ動線強化、エリア全体の回遊性の向上、未利用地の利活用、公園・広場のリニューアルなど、多面的な空間再生を進めます。



佐田浜地区

“海の伊勢志摩の新たな玄関口”として、鳥羽うみ文化の体験・発信拠点や、海を臨む豊かなオープンスペースなどを核に、にぎわいと交流を創出します。防災機能も備えた新たな鳥羽のシンボルを目指します。

中心市街地地区

空き家・空き地を利活用し、小規模店舗や休憩スポットを点在させながら交通の在り方を改善することで、歩きたくなる通りを再生します。歴史的町並みや水辺景観も活かします。

城山公園地区

鳥羽城跡や旧鳥羽小学校の歴史文化資源を活かした、市民も観光客も気軽に集える公園地区を目指します。観光名所であり、安全・安心な避難場所でもある観光・防災拠点となります。

鳥羽駅周辺エリアの立地戦略

観光地:伊勢志摩の底上げ
神宮だけでなく“もっと海を体験する伊勢志摩へ”

KETPLAN



森の伊勢志摩

神宮



玄関口
伊勢市駅前
(外宮)

宇治山田駅前
(外宮・内宮)

五十鈴川駅前
(内宮)

伊勢市内
鳥羽市内
志摩市内

面としての賑わい
多い(面)

“森(神宮)”も、“海”も。
伊勢志摩の2つの顔を再確立

現在の鳥羽駅前
(鳥羽水・ミキモト他)

賢島駅前
(ホテル・遊覧船)
鵜方駅前
(SSV)
二見浦駅前
(夫婦岩・シーパラ)

少ない(点)

アクセスできる
観光スポットは多い

再開発により目指すのは、
もっと海を感じ、もっと海を体験できる、

“海の鳥羽”的
新たな玄関口

離島・南鳥羽との
周遊も活性化し
より面としての
賑わいを大きく

海の伊勢志摩

※円の大きさは各ターミナルの規模を表現

250819 DRAFT



目標①里山里海とともに観光客と市民がにぎわうニューゲート

■基本方針

国立公園内の貴重な自然環境・文化との調和と共存

鳥羽ならではの貴重な自然環境・文化を守り・活かした、「国立公園の中にあるまち」として相応しいまちづくりを進めます。訪れる人々が鳥羽の魅力を五感で感じられるまちとなります。

鳥羽の中心かつ新たな玄関口としての拠点整備

駅前や中心市街地の主要拠点において、市民と観光客が交流する新たなにぎわいの場を創出します。この拠点は、鳥羽の新たな顔として、訪れる人や住む人にとっての大切な場です。ここで行われる多くの企画・イベントを通じて、多様な人が出会いの場となります。

昼も夜も楽しめる市民と来訪者の交流が生まれる場づくり

観光スタイルの多様化に対応した滞在インフラを拡充します。夜のにぎわいをもたらすコンテンツにあふれる場を創出し、ナイトタイムエコノミーを推進します。

市民の生活サービスが行き届いた、市民が快適に過ごせる環境の整備

観光客にとっての空間だけでなく、市民にとっても生活空間の一部として居心地の良い空間を整備します。市民の生活サービスが行き届き、エリアだけでなく、市民全体にとって快適に過ごせる環境を整備します。

■取り組み内容

佐田浜地区

- ・駅前を中心とした観光・交流機能の強化に向けて、来訪者の滞在を支える都市機能の拡充に取り組みます。
- ・パールビル跡地を含む駅前に新たな賑わい拠点の再開発に取り組みます。
- ・海沿いに豊かなオープンスペースの創出に取り組みます。
- ・佐田浜西公園と旧ビジターセンター跡地において、佐田浜の北ゲートとなる空間づくりに取り組みます。
- ・佐田浜東公園、ガソリンスタンド跡地等において、佐田浜の南ゲートとなる空間づくりに取り組みます。
- ・鳥羽うみ文化の発信拠点として、観光市場などの整備を検討します。
- ・離島住民が待ち時間を快適に過ごせる居場所の創出を検討します。
- ・海辺の風景に調和する落ち着いた景観形成に向けた取り組みを行います。
- ・駅からマリンターミナルまでの歩行者動線の改善に取り組みます。
- ・インバウンドやクルーズ乗船客が円滑に回遊・滞在できるよう、駅前における観光案内・交通案内の強化を検討します。
- ・インバウンド向けのイベントや文化体験を通じて、来訪者の満足度と滞在時間の向上に取り組みます。
- ・みなとまちらしさを活かした夜市・屋台・クルーズディナー・音楽ライブなどのコンテンツ企画の実施に取り組みます。

城山公園地区

- ・鳥羽城跡、旧鳥羽小学校や周囲の緑の保全を図りつつ、樋ノ山、日和山や鳥羽湾への眺望を楽しみながら散策できる空間の整備に取り組みます。
- ・安心して夜間にも立ち寄れる公園として、城跡や木々を活かした控えめで上質なライトアップや、星空観賞イベントなどの静かなコンテンツの企画を検討します。
- ・旧鳥羽小学校は、その歴史的背景や価値を伝えながら、市民や観光客が集う施設としての活用を検討します。
- ・現在使われていない市役所周辺施設の撤去・跡地利用を検討します。

中心市街地地区

- ・空き家・空き店舗は関係法令に基づく適切な措置を行う、またはその有効利用に取り組みます。
- ・市民が気軽に利用できる店舗や公共空間、小規模イベントの場の整備に取り組みます。
- ・地域住民の交流や活動の場としてのマリンパーク等の再整備を検討します。
- ・旅館に宿泊する観光客以外のニーズに対応する、既存施設の改修も含めた滞在インフラの拡充を検討します。
- ・市街地内からも山や海の自然が感じられる“風景の抜け”を意識した空間構成を検討します。
- ・夜のまち歩きを促すような企画(夜市、はしご酒など)や、ミニライブやワークショップなどのカルチャーイベントの企画を検討します。
- ・国道42号の鳥羽駅前～鳥羽水族館前までの区間の電線地中化を検討します。

目標②市民も観光客も安心して過ごせる防災のまちづくり

■基本方針

災害に強い都市構造への転換

津波や浸水を前提とした土地利用、災害による被害を軽減するための防災機能を強化した建築計画を進めていき、エリア全体のレジリエンスを高めます。

いつもをもしもに役立てる防災機能の拡充

防災空間を「いざ」というときだけでなく、日常的に市民や来訪者が利用できる「いつも」の場所を、「もしも」の災害時にも利用しやすい防災機能を付与した施設として整備します。広場・公園・オープンスペースの多機能化、散歩道を避難路とすることや、備蓄施設整備などを進めます。

誰もが迷わず行動できる情報提供・案内誘導の充実

離島も含む市民だけでなく観光客など、誰もが緊急時に適切に避難できるよう、多言語対応やデジタル技術の活用も視野に入れた、視覚的にもわかりやすい案内や避難情報の提供を目指します。

災害に備えるエネルギーの導入と連携体制の強化

再生可能エネルギーの導入やエネルギー自立型の仕組みを導入し、災害時でも持続的に機能するまちを目指します。また、官民連携によるDCP・BCPの策定を通じて、平時から協働体制を引き継続します。

■取り組み内容

エリア全体

- ・日常的に利用される防災拠点や滞留空間、わかりやすい避難経路のネットワークの形成に取り組みます。
- ・集客施設の防災拠点性向上に取り組みます。
- ・津波時に浸水する建物低層部を駐車場やオープンスペースとして利用した建築計画を検討します。
- ・防災備蓄倉庫の拡充を検討します。
- ・津波時に浸水する建物低層部を駐車場やオープンスペースとして利用した建築計画を検討します。また、津波時には垂直避しやすく、かつ屋上が避難場所となる様な建築計画を検討します。
- ・DCP(Destination Continuity Plan:観光地としての機能維持に向けた計画)およびBCP(Business Continuity Plan:民間事業者の事業継続を想定した計画)の策定や、災害時の官民連携に積極的に取り組みます。
- ・住民だけでなく、来訪者にも緊急時・災害時に安心して避難ができるよう、安全な場所であることをわかりやすく伝えることができる仕組み・体制づくりに継続して取り組みます。
- ・緊急時、災害時の備えとしてエネルギーを確保するために、再生可能な自然エネルギー等が利用できる仕組みづくりを検討します。

目標③鳥羽うみ文化・歴史を引継ぎ 時代とともに進化する

■基本方針

海とともに歩んできた文化の発信・発見の場づくり

漁業や海女文化など、鳥羽ならではの「うみ文化」の魅力を発信する拠点や仕掛けを整備し、来訪者にも地域のストーリーを伝える機会を創出します。非日常体験・体感型の情報提供を通じて、鳥羽の価値を再発見できる場となります。

未来へつなぐ歴史・文化資産の保存と活用

鳥羽城跡や城下町のまちなみなど、地域に息づく歴史的資源を保存・活用し、現代の風景や暮らしと調和する空間づくりに取り組みます。旧鳥羽小学校の利活用を進め、観光や防災、地域交流など多様な機能を備えた拠点として再生します。訪れる人が歴史の面影を感じられる「まちの表情」の保全と演出を進めます。

地元のいきいきとした営みや風景の再生

観光視点に偏らず、地元の営みや店舗、風景といった日常に根ざした文化的資産を大切に守り、次世代にも引き継げるような仕組みをつくります。そこに暮らしている人のように散歩したり、その土地の日常に溶け込むように過ごす楽しみを感じる「ローカルツーリズム」を目指し、日々の暮らしの中に文化が息づく鳥羽らしい風景の再生を図ります。

■取り組み内容

佐田浜地区

- ・鳥羽の漁業や海の魅力、非日常の体験を発信する情報拠点の整備に取り組みます。

城山公園地区

- ・鳥羽城跡や城山公園において、イベント等の多様な利活用を継続的に取り組みます。
- ・城山公園及び鳥羽城跡の景観改善・高質化と滞在価値を向上させるリノベーションを検討します。
- ・観光と防災の拠点として旧鳥羽小学校の利活用を検討します。

中心市街地地区

- ・暮らしのなかに息づく店舗や風景、日々の営みの保全・再生に取り組みます。
- ・鳥羽ならではの体験や魅力を伝える情報拠点の整備を検討します。
- ・城下町としての街並みを生かした空間づくりを検討します。
- ・妙慶川沿いの景観改善を継続して取り組みます。

目標④オールストレスフリーで海にもまちにも行き届く

■基本方針

広域アクセスと市内交通の利便性向上

国内外、南鳥羽、離島を含む広域とのアクセス利便性を高めるため、高速バス・鉄道・フェリーなどの交通手段の充実と接続改善を進めます。来訪者と地域住民の双方にとって使いやすく、移動しやすい交通体系を整えます。

海・まち・島をつなぐ交通結節点の再構築

鳥羽駅前やバスターミナルなどの再編を通じて、陸・海・公共交通の乗り継ぎがスムーズになるような結節点を目指します。鉄道・船・バスなどの公共交通の連携を強化し、時間や動線のロス解消を目指します。

すべての人にやさしい移動環境の整備

高齢者や障害のある方、子連れの来訪者など、誰もが安心して移動できるよう、駅や港、歩行空間のバリアフリー化を進め、ストレスのない移動体験を提供します。

まち歩きを促すモビリティと休憩環境の充実

徒歩とあわせて、バス、電動モビリティ、自転車など多様な移動手段を組み合わせ、歩きたくなるまちを目指します。新たなモビリティの導入により、「乗ること自体が楽しい体験」となる交通サービスを実施し、乗り継ぎの待ち時間を快適に過ごせる居場所や休憩ポイントの充実を図ります。

■取り組み内容

エリア全体

- ・広域交通の拡充や市内交通の充実を検討します。
- ・バス・タクシーなどの公共交通空間の集約や定期船乗り場へのアクセス性の改善など、鳥羽駅前の交通広場の再編を検討します。
- ・乗り換えや待ち時間を有効に使える空間の整備を検討します。
- ・地区の開発に応じた駐車場の在り方の見直しに取り組みます。
- ・各拠点と主要な歩行者動線におけるバリアフリー化に取り組みます。城山公園までの動線において、バリアフリー用通路設置の計画を検討します。
- ・多言語対応や案内・通信機能を強化し、インバウンドや観光客が快適に滞在・回遊できる環境づくりに取り組みます。
- ・パーソナルモビリティの充実によるラストワンマイルの交通ネットワーク形成に取り組みます。
- ・まちあるきの拠点として、バス停やパーソナルモビリティが連携する小さな交通拠点(ローカルハブ)の整備を検討します。

目標⑤たたずみ歩いて楽しいかもめと海城の散歩道

■基本方針

エリア全体をつなぐ“散歩道ネットワーク”的形成

海沿い、歴史空間、まちなか、山道など、多様な魅力をもつエリア全体を歩行者ネットワークでつなぎ、人々がたたずみながら歩く“散歩道ネットワーク”を形成します。単なる移動ではなく、滞在したくなる仕掛けを随所に設けます。

散歩道ごとの個性ある景観のデザイン

海沿いの「かもめの散歩道」、まちなかの岩崎通りや妙慶川護岸プロムナードなど既存の道を再整備するとともに、新たな道も散歩道として位置づけ、それぞれの空間特性や背景に応じた個性ある景観デザインを施します。歩くルートごとに異なる魅力を感じられるまちあるきを演出します。

散歩道どうしが交差する“まちあるき拠点”的整備

散歩道が交差・合流する場所には、休憩や情報発信、交流ができるまちあるきの拠点を整備します。特にマリンパークを再整備し、散歩道ネットワークの中間拠点として回遊の核となる場をつくります。

散歩道沿いに点在する“小さな居場所”的創出

空き家や未利用地など、まちに眠る空間資源を利活用し、散歩道沿いにポケットパークやイベントスペースなどの小さな居場所を点在させます。歩く中でふと立ち寄りたくなる風景を生み出します。

■取り組み内容

佐田浜地区

- ・かもめの散歩道を拡充し、佐田浜地区全体をめぐる散歩道ネットワークの形成に取り組みます。
- ・かもめの散歩道沿いにある、海や離島の景観を眺めながら過ごせるベンチなどの滞留空間を拡充し、魅力と居心地の向上に取り組みます。
- ・水際の演出や夜間照明などを通じて、時間帯を問わず楽しめる“かもめの散歩道”的改善を検討します。

城山公園地区

- ・公園へのアクセス動線の景観上、安全性、利便性の向上の改善を検討します。

中心市街地地区

- ・マリンパークは、駅や佐田浜と中心市街地をつなぐ「散歩道ネットワークの中間地点」として、まち歩きの魅力を高める拠点の整備を検討します。
- ・岩崎通り・錦町通りなどの沿道景観整備・道路利活用促進に取り組みます。
- ・空地、空き家、未利用地を活動・イベントの場としての暫定利用に取り組みます。
- ・一部の低・未利用地を“小さな居場所”として整備することを検討します。
- ・妙慶川沿いの建物の将来の建替えを見据え、建物の顔が川に向いた空間づくりを検討します。

ロードマップ

まちづくり推進体制

ビジョン策定までの経緯

令和6年度から、策定委員会、検討部会、プロジェクト会議といった会議を定期的に開催し、ビジョンの内容について合意形成を行った。

日程	会議	議題
11/18	第1回検討部会	再生ビジョンとは、現況調査・分析の途中報告
	第1回策定委員会	
11/26	プロジェクト会議(府内会議)	第1回検討部会・第1回策定委員会の結果報告
12/19	第2回検討部会	現況調査・分析の最終報告、類似都市比較、ビジョンの事例紹介
12/24	プロジェクト会議(府内会議)	第2回検討部会の結果報告
1/24	浅野先生勉強会	鳥羽市の中心市街地の将来ビジョンについて
	第3回検討部会	2050年の社会について、将来の利用者が望むことについて(ワークショップ)
1/28	プロジェクト会議(府内会議)	浅野先生勉強会・第3回検討部会の結果報告
2/21	第4回検討部会	将来像とまちづくりのテーマ(素案)について
2/25	プロジェクト会議(府内会議)	第4回検討部会の結果報告、将来像とまちづくりのテーマ(素案)について
3/28	第2回策定委員会	将来まちづくり方針(将来像と目標)について
4/22	プロジェクト会議(府内会議)	第2回策定委員会の結果報告、佐田浜地区について
4/25	第5回検討部会	佐田浜地区について①
5/26	第6回検討部会	佐田浜地区について②、城山公園地区について
6/24	プロジェクト会議(府内会議)	第6回検討部会の結果報告、中心市街地地区について
6/27	第7回検討部会	中心市街地地区について
〃	高校生・外国人ワークショップ	鳥羽の価値／外国人にとってあつたらよいもの／佐田浜・マリンパークに望む機能／城山公園の有効活用
7/22	プロジェクト会議(府内会議)	
8/18	プロジェクト会議(府内会議)	
8/19	第8回検討部会	
9/24	プロジェクト会議(府内会議)	
9/30	第9回検討部会	
10/21	プロジェクト会議(府内会議)	
10/28	第10回検討部会	
11/18	プロジェクト会議(府内会議)	
11/	第3回策定委員会	
12/23	プロジェクト会議(府内会議)	
1/	パブリックコメント	
3/	第4回策定委員会	

策定委員会構成員(開催当時)

國學院大學 観光まちづくり学部	教授	浅野 聰
//	副教授	梅川 智也
独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校	副校長	江崎 修央
鳥羽商工会議所	副会頭	小田 徳彦
一般社団法人鳥羽市観光協会	会長	原田 佳代子
鳥羽磯部漁業協同組合	常務理事	濱口 利貴
鳥羽市旅館組合連絡協議会	会長	吉田 一喜
鳥羽市自治会連合会	会長	斎藤 陽二
鳥羽市温泉振興会	会長	吉川 勝也
株式会社鳥羽水族館	代表取締役社長	若井 嘉人
株式会社御木本真珠島	取締役	柴原 昇
近鉄グループホールディングス株式会社 事業戦略部 伊勢志摩支社	伊勢志摩支社長	山本 寛
三重交通株式会社	伊勢志摩営業所長	藤原 寛仁
東海旅客鉄道株式会社 東海鉄道事業部 管理部	企画課担当課長	豊田 智隆
三重県庁	観光部次長	伊藤 光明
鳥羽市	副市長	立花 充

検討部会構成員(開催当時)

鳥羽商工会議所	1号議員	谷口 優太
一般社団法人鳥羽市観光協会	副会長	江崎 貴久
鳥羽磯部漁業協同組合	管理部門統括兼総務指導課長	濱口 輝満
鳥羽市旅館組合連絡協議会		吉川 好信
鳥羽市温泉振興会	副会長	世古 素大
街・再興委員会	委員	寺田 貴晃
株式会社鳥羽水族館	常務取締役	中村 文哉
株式会社御木本真珠島	取締役	松田 昭太郎
三重県観光部 観光振興課 受入環境促進班 班長	班長	小林 克彰
定期船課	課長補佐	西根 さつき
観光商工課	課長補佐	村山 陽介
建設課	室長	浜崎 政孝

プロジェクト会議(庁内会議)構成員

総括	企画財政課長	中村 菊也
担当責任者	企画財政課副参事(地方創生・企画経営担当)	斎藤 猛
担当責任者	建設課長	高村 史博
部員	観光商工課長	高浪 七重
//	農林水産課長	吉川 国博
//	定期船課長	山本 勝利
//	建設課まちづくり整備室長	濱崎 政孝
//	総務課長	勢力 豪
//	健康福祉課副参事(地域医療担当)	田畠 詩麻
//	総務課長	濱口 博也
//	総務課長補佐	山本 昌史
//	観光商工課長補佐	村山 陽介
//	農林水産課長補佐	舟橋 守
//	定期船課長補佐	西根 さつき



お問い合わせ
鳥羽市 企画財政課 企画経営室
(0599)25-1101